

注意すべき和製(カタカナ)英語

1. 語形が原語と少し違うもの

④原語の語尾(～s, ～ing, ～ed,)が脱落している場合が多い。

- | | |
|--------------|---|
| ①「サングラス」 | sunglasses |
| ②「レディ・ファースト」 | ladies first |
| ③「マナーがいい」 | have good manners |
| ④「ウーマン・リブ」 | Women's Lib |
| ⑤「ハッピーエンド」 | happy ending |
| ⑥「マッシュポテト」 | mashed potatoes |
| ⑦「クラシック音楽」 | classical music |
| ⑧「オリンピック」 | the Olympics
=the Olympic Games |
| ⑨「スケートリンク」 | skating rink |
| ⑩「コーンビーフ」 | corned beef |
| ⑪「サラリーマン」 | salaried worker
=office worker |
| ⑫「ブランド品」 | branded goods
=quality-brand goods
=famous-name brands
=big-name brands
=brand-name goods |
| ⑬「スケート」 | skating |
- ④「フィギュアスケート」は figure skating.
「スケートをする」は skate。
「われわれは湖へスケートに行った」は
We went skating on[×to] the lake.

2. 語の短縮

(1) 語の後半が切り捨てられてしまっているもの

- | | |
|---------|-----------------|
| ①「アクセル」 | accelerator |
| ②「エアコン」 | air conditioner |
| ③「イラスト」 | illustration |
| ④「テロ」 | terrorism |

- ⑤ 「マスコミ」 mass communication
 =mass media
- ⑥ 「マスプロ」 mass production
- ⑦ 「アパート」 apartment (house)
- ⑧ 「コネ」 connection
- ⑨ 「アニメ」 animation
- ⑩ 「コンペ」 competition
- ⑪ 「リハビリ」 rehabilitation
- ⑫ 「デパート」 department store
- ⑬ 「リストラ」 restructuring
- ⑭ 「インフレ」 inflation
 anti-inflation measure:インフレ対策
 inflationary trend:インフレ傾向
 deflation:デフレ
- ⑮ 「テレビ」 television

(2) 2つの語の前半同士をくっつけて1つの語にしたもの

- ① 「リモコン」 remote control
 (ex) I changed TV channels with a remote control.
 リモコンでテレビのチャンネルを変えた
- ② 「ワープロ」 word processor
- ③ 「マイコン」 microcomputer
- ④ 「パソコン」 personal computer
- ⑤ 「プロレス」 professional wrestling
- ⑥ 「アメフト」 American football
- ⑦ 「セクハラ」 sexual harassment

(3) 語の前半を切り捨ててしまったもの

- ① 「(駅の)ホーム」 platform
- ② 「スタンドプレー」 grandstand play
- ③ 「クリームソーダ」 ice-cream soda
- ④ 「ネック」 bottleneck
- ⑤ 「ワールドカップ」 the World Cup

3.英単語の日本語的使用

英単語を、ほぼそのままの形でありながら、日本人が自己流の意味で使っている場合がある。

- ① 「トランプをする」 play cards
 英trumpは「切り札」のこと。
- ② 「試験でカンニングをする」 cheat[crib] in the examination
 英cunningは「ずる賢い」という意味の形容詞。
 「カンニングペーパー」はcrib
- ③ 「(車が) スリップする」 skid
 英slipは「人」がすべる場合に用いる。
 slip on the ice「氷の上で滑って転ぶ」
 「(車が)滑って塀にぶつかる」は以下のように言う。
 skid into the wall
- ④ 「(車の) ハンドル」 (steering) wheel
 英handleといえば「柄」「取っ手」を意味する。
 「ハンドルを握っている」はbe at the wheel
 「ハンドルを(右に)切る」は以下のように言う。
 turn the steering wheel (right).
- ⑤ 「ポット」 thermos
 英potは「壺」「なべ」を意味する。
- ⑥ 「マンション」 apartment (house)
 =condominium
 英mansionは「大邸宅」を意味する。
- ⑦ 「バーゲン」 (bargain) sale
 英「Aをバーゲンで買う」は以下のように言う。
 buy A at a (bargain) sale
 =buy A on sale
 =buy A at a bargain price
 bargainは「掘り出し物」「安い買物」の意。
- ⑧ 「アクセサリー」 jewelry
 英accessoryは、「女性の帽子、靴、手袋ハンドバッグ等」
 のこと。
- ⑨ 「アクロバットをする」 do acrobatics
 英acrobatは「曲芸師」のこと。
- ⑩ 「ビジネスマン」 office worker
 =company employee
 =white-collar worker
 英businessmanは通例「企業の経営者・重役」のこと。

- ⑪ 「カーペット」 ㊦「カーペット」は床全体を覆う物のこと。
床の一部を覆う物のことはrugと言うので注意。
- ⑫ 「クレーム」 complaint
㊦claimは「要求」「主張」「権利」。
「Aにクレームをつける」は以下のように言う。
make a complaint about A
=complain about A
- ⑬ 「(博覧会等の)コンパニオン」 attendant of the fair
=fair guide
㊦英語のcompanionは「仲間」「話相手」「付き添い」の意。
- ⑭ 「(陸上・水泳等の)コース」 lane
- ⑮ 「ダンスパーティー」 dance
㊦「ダンスパーティーに行く」は以下のように言う。
go to a dance
- ⑯ 「デッドヒートの末に勝つ」 win[gain] a narrow victory
㊦英語のdead heatは「同着」の意。
- ⑰ 「ドライブイン」 roadside restaurant
=drive-in restaurant
㊦英語のdrive-inは「車に乗ったまま利用できる劇場・食堂等」
のこと。
- ⑱ 「ドライブウェイ」 highway
㊦英語のdrive wayは「(自宅の)門から玄関までの車道」のことで
「私道」などと訳す。
- ⑲ 「フェミニスト」 chivalrous man
㊦英語のfeministは「男女同権論者」のことで「女性にやさしい人」
の意はない。
- ⑳ 「マンネリになる」 become stereotyped
「ビニール製の」 plastic
㊦plasticにはもちろん「プラスチック製の」という意もある。
- 「スポーツマン」 athlete/be good at sports
㊦英語のsportsmanは「乗馬・狩猟・釣り等をする人」のこと。
- 「スタイルがいい」 have a good figure
「プロポーションがいい」 =have a well-proportioned body
「プロポーションのいい女の子」 a girl with fine proportions

4.日本人による造語（いわゆる和製英語）

- | | |
|----------------|---|
| ① 「バックミラー」 | reaview mirror |
| ② 「フロントガラス」 | windshield |
| ③ 「コイン・ロッカー」 | locker |
| ④ 「ガソリンスタンド」 | gas station
=filling station
=service station |
| ⑤ 「ブックカバー」 | book jacket
coverは「表紙」のこと。 |
| ⑥ 「ベビーカー」 | baby carriage
=pram |
| ⑦ 「バックネット」 | backstop |
| ⑧ 「ガードマン」 | guard |
| ⑨ 「ベッドタウン」 | commuter town
=bedroom suburbs[community] |
| ⑩ 「テーブルスピーチ」 | after-dinner speech |
| ⑪ 「プレイガイド」 | ticket agency |
| ⑫ 「シャープペンシル」 | mechanical pencil
=ever-sharp pencil |
| ⑬ 「キャッチボールをする」 | play catch |
| ⑭ 「フォアボール」 | walk
④「フォアボールを出す」はwalk the batter
または、give a walk。 |
| ⑮ 「シーズンオフ」 | off-season |
| ⑯ 「ゴールデンアワー」 | prime time |
| ⑰ 「OL」 | office worker |
| ⑱ 「コンセント」 | (wall) outlet
=wall socket |
| ⑲ 「シンボルマーク」 | symbol
=mark |
| ⑳ 「キャンピングカー」 | camper
④「キャンピングカーが丘の上に駐車している」は以下のように言う。
A camper is parked on the hill. |
| 「フライング」 | false start |

「ハイティーン」	late teens ◎「ローティーン」はearly teens。
「アンバランス」	imbalance
「電子レンジ」	microwave oven
「オーダーメイド」	made-to-order/tailor-made
「クーラー」	air conditioner ◎「カークーラー」も air conditionerでいい。
「チアガール」	cheerleader
「スキンシップ」	personal contact ◎内面的な心のふれあいの意。
「ダンプカー」	dump truck
「テレビゲーム(をやる)」	(play) a video game

《その他》

「トップクラス」	high-class / first-class[rate] ◎「トップクラスの～」は、top～又は、leading～。 新聞等の「トップ記事」は、lead。
「ノンバンク」	non-bank financial institution
「パンクする」	have a flat tire
「ポケットベル」	pager / beeper ◎ちなみに「携帯電話」は、a cellular phone 又は、a portable telephone。
「マークシート方式」	mark sensing ◎「マークシート用紙」は、mark sensing card。
「リサイクルショップ」	secondhand store
「マンション」	apartment (house)/condominium ◎ちなみに「アパート」も、apartment (house)。 「高級マンション」は、luxury apartment。 「リゾートマンション」は、resort condominium。
「レンタルビデオ」	video rental/rented video movie ◎ちなみに「レンタカー」は、rent-a-car。
「キャッチホン」	call-waiting
「アフターサービス」	after-sales service (ex) The store provides[gives] very good after-sales service. The service at the store is great. その店はアフターサービスが行き届いている
「カーナビ」	a car navigation system
「プリント」	handout / flyer
「リフォーム」	renovation / redecoration / makeover
「オートバイ」	motorcycle
「ハイペース」	quick[rapid] pace
「ゴーサイン」	green light
「サラリーマン」	office worker / company employee

「パンツ」	slacks / dress pants underwear / underpants
「ガソリンスタンド」	gas station
「マンション」	apartment building / apartment complex
「Yシャツ」	dress shirt / business shirt
「プッシュホン」	touch-tone telephone
「カンニングペーパー」	cheat sheet / crib sheet
「ボールペン」	ball-point pen
「ガードマン」	security guard
「ホールドドラマ」	soap opera / family drama
「リムジン」	stretch limousine / shuttle bus
「キーホルダー」	key chain
「ツーピース」	two-piece suit
「ウィルス」	virus
「ビタミン」	vitamin
「シャープペンシル」	mechanical pencil
「(駅の)ホーム」	platform
「サイドブレーキ」	handbrake

④「サイドブレーキ」をかけたまま運転する」は drive with the handbrake on.

5.50 音別索引

(1) アイス

アイスクリームのことを日本語で「アイス」ということがあるが、ice は英語ではシャーベットなどの氷菓子を指すので注意。「アイスクンデー」は和製語。アメリカでは、popsicle, イギリスでは ice(d) lolly という。前者は商標名からきている。

(2) アイドル

「アイドル」は「偶像」の意の idol からきており、「若者たちのアイドル」は young people's idol のようにいえるが、スポーツ選手などの場合は hero(英雄)を使ってもよい。「アイドル歌手」は idolized singer(偶像化された歌手)とか singing idol(歌うアイドル)のようにいうが、idol singer とはいわない。

(3) アウト

野球の「Aをアウトにする」は get A out とすればよいが、get だけでもその意味を表すことができる。「アウトコース」「アウトコーナー」はともに和製語で、英語では outside of the plate とか outside corner of the plate という。

(4) アクアラング

アクアラングはフランスのクスト一大佐が開発したもので、もとは商標名。aqua(ラテン語で「水」と)と lung(肺)から作った語。今は scuba(スキューバ)のほうがふつうで、これは self-contained underwater breathing apparatus(自給式水中呼吸器)の頭の文字をとったもの。「スキューバダイビング」は scuba diving でいい。

(5) アップ

英語の up と日本語の「アップ」は用法がかなり異なる。英語の up にも動詞用法はあるが、使用頻度は高くない。「料金をアップする」は raise the fare, 「イメージをアップする」は improve the image のように別の動詞を使うのがふつう。「ベースアップ」「グレードアップ」「レベルアップ」などもすべて和製語である。「グレードアップする」は upgrade, 「グレードアップしたもの」は an upgrade。「ベースアップ」は a pay raise.

(ex) We got a 5% (pay) raise[rise] last year.
Our salary rose[went up] by 5% last year.
去年は5パーセントのベースアップがあった

(6)アナウンス

日本語では「駅のアナウンスによれば～だ」のようにいうが、英語の announce は動詞なので、正しくは

According to the announcement of the train station, S+V～.
のように名詞形を使っていう必要がある。また英語の announce は「(結婚・死亡などを新聞などに)公表する」が第一義で、「放送」とは限らない。

(7)アベック

「アベック」はフランス語の avec(…といっしょに)からきている。「男女の二人連れ」のことなので英語では couple が適切。

「恋人の二人連れ」を強調するならば couple on a date と言えばよい。

(8)アメリカン

アメリカ風の薄いコーヒーを「アメリカン」というが、これをアメリカで American coffee といっても通じない。アメリカでは薄いコーヒー (mild coffee) が一般的だからである。単に coffee とだけいえばよい。「アメリカン(つまり薄めのコーヒー)を一つお願いします」は I like[want] my coffee weak. のようにいう「濃いめ」なら weak のところを strong にすればいい。

(9)アルバイト

ドイツ語の Arbeit(仕事,研究)からきているが、英語としては使えない。英語では part-time job とか job on the side という。

(10)アレルギー

ドイツ語の Allergie からきている。英語では allergy で、「〇〇アレルギー」は be allergic to 〇〇 と形容詞形を使うが、「〇〇嫌い」の意の「アレルギー」には phobia(恐怖症)を使うこともできる。「私は飛行機恐怖症だ」は I have a phobia for airplanes. という。

(11)アンケート

「アンケート」にあたる英語は questionnaire で、調査だけでなく調査用紙も指す。「世論調査」の意味なら opinion poll を使ってもよい。

(12)アンバランス

英語の unbalance は名詞の形で用いることは少なく、unbalanced mind(取り乱した心)のように形容詞として用いることが多い。名詞としては imbalance がふつう。

(13) イージー

easy は「容易な」とか「手軽な」の意。安易な方法をとることを非難して「イージーゴーイング」とか「イージーな」というが、英語の easygoing は「こせこせしない」の意で、悪い意味はない。easygoing teacher は「(うるさいことを言わない)のんきな先生」である。

洋服の「イージーオーダー」は easy と order(注文)から作った和製語。イージーオーダーそのものが日本独特の方法で、英語で表すなら tailoring a suit without a fitting(仮縫いなしの仕立て)となる。

(14) イコール

「イコール」は英語の equal から。ただし、英語では例文のように equal のほかに is, make, leave などを用いることもできる。日本語では、例えば「貧乏イコール不幸という図式は必ずしも正しくない」のような言い方をするが、この「イコール」は be動詞や mean を用いて、The equation that poverty is[means] unhappiness is not always true. のようにいう。

(15) イメージアップ

これは和製語。improve one's image とか polish one's image のようにいう必要がある。また、「イメージダウン」「イメージチェンジ」も同様で、前者は damage one's image, 後者は change one's looks などとする。

(16) イラスト

英語の illustration を短縮したもの。日本語の「イラスト」は主にさし絵のことをいうが、illustration は説明図も含む。したがって「イラスト」の訳語としては picture も場合によっては可能。

(17) インテリ

「インテリ(の人)」 an intellectual という。an educated person も可。日本語の「インテリ」はときに軽べつ的に用いられるが、これに相当する英語には highbrow, egghead, longhair などがある。

(18) インテリア

日本語の「インテリア」は「室内装飾」の意で用いることが多いが、英語の interior には「室内(の), 内部(の)」の意味しかない。したがって日本語の意味を表すには interior decoration のようにいう必要がある。「インテリア」をもじって「屋外装飾」の意味で「アウトテリア」ということがあるが、完全な和製語。正しくは exterior である。

(20) インフルエンザ

「インフルエンザ」は influenza からきているが、口語では省略形の (the) flu のほうがふつう。単に「ひどいかぜ」の意味なら bad cold といえよ。

(21) エイプリルフール

日本では4月1日という日を指して「エイプリルフール」といっているが、英語の April fool はこの日にだまされた人、またはその日のうそやいたずらをさしている。その日は April Fools' [Fool's] Day または All Fools' Day(万愚節)という。

(22) エゴイズム

egoism または egotism が相当するが、前者は倫理学や哲学で用いることが多い。「エゴイスト」は自己中心的な人のことだから self-centered person といえよ。

(23) エチケット

礼儀作法のことを「エチケット」といっているが、この語はフランス語から来ていて、英語では現在ではあまり使われていない。特に人の行儀の良さ[悪さ]をいうときは etiquette を使わず、He has good[bad] manners. のようにいうのがふつう。

(24) エルディーケー

LDK は Living, Dining, Kitchen の頭文字から作った和製略語で、英語では通じない。a living room and a kitchen-cum-dining area のように説明的にいう。cum は with の意のラテン語から来ている。

(25) エンスト

エンジンがストップすることから「エンスト」というが、engine stop という英語はない。英語では engine failure または engine stall という。「エンストした」は The engine stopped. のようにもいうことはできるが、これも stall を動詞に使って The engine stalled. のように表現するほうがいい。

(26) オーエル

OL は office lady の頭文字をとったものであるが、office lady という英語は存在しない。(female) office worker とする。office girl としてしまうと、事務所などで手伝い仕事をする使い走りのような女性を指す。

(27) オーダーメイド

注文による製品を「オーダーメイド」というが英語では custom-made あるいは made-to-order といい、いずれも形容詞として用いる。「レディーメイド」は ready-made でよい。

(28) オートバイ

オート (auto) とバイシクル (bicycle) を組み合わせて作った和製語で、英語では motorcycle がふつう。イギリスでは motorbike ともいうが、アメリカではこれは特に小型のものを指す。「オートバイに乗る人」は motorcyclist。日本語では「バイク」ともいい、イギリスの bike も同義で用いられることもあるが、アメリカの bike は通例、自転車 (bicycle) を指す。

(29) オービー

男子の卒業生を指す OB は old boy の頭文字をとったと考えられるが、英語ではこの略語はほとんど用いられない。ちなみに、old boy は主にイギリスの public school (上流家庭の子どもが行く私立校) の卒業生を指す言葉である (女子は old girl)。日本語の「オービー」には「卒業生」という意味で graduate や alumnus [複 alumni] をあてる。また「彼は〇〇高校の〇Bだ」は He went to 〇〇 high school. でもいい。

(30) オールドミス

英語では old maid という。ただし、この語は日本語の「オールドミス」が連想させる年齢よりも8~10歳近く高い。old maid には「男性にあまり興味がなく、仕事や趣味などに生きがいを見いだしている女性」、「荒っぽいことばづかいや男性ばかりの集団を好まない女性、非社交的な女性」といったニュアンスもある。最近では old maid ということば自体が嫌われ、She is single. (彼女は独身だ) などの言い方が好まれる。

(31) ガールフレンド

英語の girlfriend は「恋愛関係にある特定の若い女性、恋人」の意味で用いる。最近では英語でも、日本語でいう「女友だち」の意味で girlfriend を用いることもあるが、日常英語では friend だけで十分。特に女性であることを示したいときは female friend とする。

(32) カウンター

日本語の「カウンター」はバーやスナックなどを連想させるが、英語の counter は銀行の窓口、デパートなどの売り台、台所の調理台など広い意味をもつ。ホテルや空港などの受付を「カウンター」ということがあるが、英語では front desk (フロント)、check-in desk (搭乗手続所) の

ように desk を用いることが多い。

(33) ガソリンスタンド

「ガソリンスタンド」は和製語。「露店、売店」の意味の stand はこの場合使えない。英語では gas(oline) station という。給油だけでなく、修理も行うところは特に garage という。

(34) カツ

「カツ」はもともと「カツレツ」といい、明治期に英語の cutlet から日本語に入った。ただし cutlet は「(子牛肉・羊肉の)薄い切り身」のことで、西洋では veal cutlet(子牛肉のフライ)を指すのがふつう。「トン(豚)カツ」は日本人の発明した料理。英語でいえば deep-fried pork cutlet となる(deep-fry は「たっぷりの油で揚げる」の意)。

(35) ガッツ

英語の guts(根性, 勇気)からきているが、これはもともと「内臓」とか「はらわた」を表すあまり品の良くない語である。「ガッツポーズ」は全くの日本式言い方で、英語には対応表現はない
「ガッツのある男」 a man with a lot of guts
「彼はガッツがない」 He has no guts[spirit]
「勝った選手はガッツポーズを取りながらグラウンドを一周した」
The winner ran around the ground, striking a victory pose.

(36) カップル

日本語の「カップル」は、中学・高校生に対しても使うが、英語の couple は夫婦や恋人同士等、大人の男女を指すのがふつうで、
newly-married couple(新婚のカップル)
young couple(若いカップル)
devoted couple(仲むつまじいカップル)
などのように、形容詞とともに用いることが多い。

(37) カバー

日本の書店では本を買うとカバーをかけてくれるが、英米には一般的にこの習慣はない。また書籍の cover は「表紙」のことで、日本でいう「ブックカバー」は(dust[book]) jacket とか dust cover という。

(38) カメラマン

日本語の「カメラマン(=写真家)」に相当するのは photographer である。cameraman は映画・テレビの撮影技師のこと。ただし、最近では

cameraman よりも、性差のない camera operator のほうが好まれる。

(39)カンパ

カンパ活動は fund-raising(資金募集のための) campaign。
「カンパする」は「寄付する」の意味だから contribute や donate を用いる。

(40)キャリア

careerは「生涯」とか「一生の職業」の意。日本語の「キャリア」の発音は「運ぶ人」「(伝染病の)保菌者」などの意の carrierと誤解されるおそれがあるので要注意。専門の職業を持つ女性の「キャリアウーマン」は career woman でよい。また「キャリア外交官」も career diplomat でよいが、公務員の「キャリア組」,「ノンキャリア組」は career 本来の意味からずれているので elite[non-elite] bureaucrat などとする必要がある。

(41)ギャング

日本語では「暴力団」の意にも「暴力団員」の意にも用いるが、英語の gang は前者のみを指し、後者は gangster とか mobster という。「銀行ギャング」は gang of bank robbers で、「ギャング映画」は gangster film[movie] である。英語の gang はまた work gang(作業員仲間)とか road gang repairing streets(道路の補修工事をしている作業員の一団)のように、仕事仲間を指すこともある。

(42)ロ(くち)コミ

マスコミをもじって「ロコミ」というが、mouth communication では通じない。「口伝え」の意味だから by word of mouth とか from mouth to mouth のような成句を用いる。

(43)クッション

ソファーなどの上に置く装飾用のクッションは cushionでもよいが、throw pillowとか、単に pillow ともいう。日本語では運動靴などが弾力があることを「クッションがいい」というが、これは「詰め物」のことであるから cushion でなく pad を用いる。カセットなどを入れて送る「クッション封筒」は padded bag という。

(44)グラウンド

英語の ground は「運動場」の意味では日本語のように単独では用いない。通例 playground, cricket ground のように複合語として用いる。「グラウンド」をなまって「グランド」ともいうが、英語の grand は「壮大

な」という意味の形容詞である。

(45) グラマー

日本語では、特に胸が豊かな女性を指して「グラマー」というが、英語の *glamour* にはその意味はない。*glamour* は男女を問わず「魅力的な人」の意で、体格とは関係がない。また、その形容詞形 *glamorous* も人だけでなく、仕事や雰囲気についても用いられる。日本語の「グラマー」の意味を表すには *busty* や *stacked* を用いるのがよい。「文法」の意の「グラマー」は *grammar* とつづる。

(46) ケースバイケース

case by case は「一件一件(ずつ)」「その都度、場合に応じて」の意味だが、この成句の頻度は(特に話しことばでは)あまり高くない、*as the case may be*(場合に応じて)などのほうがよく用いられる。「それはケースバイケースだよ」のような文では *case by case* は使えない。*That[It] depends (upon each individual case)*。(個々の事情による)とする。

(47) ゲームセンター

「ゲームセンター」は和製語。英語ではふつう *amusement arcade* といい、アメリカでは *penny arcade* ともいう。口語では単に *arcade* と呼ぶことが多い。テレビゲーム (*video game*) が中心のものは *video arcade* といってもよい。

(48) コインランドリー

英語では *coin-operated laundry* というが、日常的にはアメリカでは *laundromat*、イギリスでは *laund(e)rette* と呼ばれることが多い。ほかに、*self-service laundry* とか *coin-op* という言い方もあるが、*coin laundry* はふつうではない。同様に「コインロッカー」も英語では *coin-operated locker* といい、日常的には単に *locker* あるいは *pay locker* という。*coin locker* はふつうではない。

(49) コース

「コース」に *course* を使えない場合がある。例えば、水泳や陸上競技の「コース」は *lane* で、プールの「コースロープ」は *lane rope* という。また、野球の「インコースの球」「アウトコースの球」はそれぞれ *inside pitch*, *outside pitch* という。「パレードのコース」は *parade route* のほうがいい。料理用語としての「コース」は「決まった順序で出される料理」の意であるが、英語の *course* は「品を指し、*dinner of seven courses*,

seven-course dinner(7品料理のディナー)のように用いる。

(50) ゴールデンウィーク

「ゴールデンウィーク」は和製語で、そのまま Golden Week としても通じない。ただし、文章中で the holiday-studded "Golden Week"(休日
が散在するゴールデンウィーク)のように表すのは可。holiday week
とも表現できる。

(51) コップ, カップ

「コップ」は「杯」の意味のオランダ語 kop から日本語に入った。
一方、「カップ」は英語の cup からきている。「コップ」に当たるのは
glass であるが、glass はもともと「ガラス」なので、「紙コップ」は
paper cup とする必要がある。cup は通例温かい飲み物用の茶わん
(tea-cup など)や「優勝杯」を指す。

(52) コピー

「複写」の意の「コピー」に当たる英語には copy, duplicate, photocopy
Xerox があるが、最初の2語は複写機を使わない手による「写し」も意味
する。またこれら4語は「コピーする」という動詞にも使われる。
絵画などの「複製品」の意味でも copy を使えるが、この意味では
reproduction のほうが正確。

(53) コマーシャル

「コマーシャル」は commercial がそのまま使えるが、commercial
message の略語とされる CM は日本でしか通用しない。同様に
CF(commercial film の略)も英語では用いない。
いわゆる「コマソン」(コマーシャルソング)は commercial jingle で
commercial song というと「商業的に売れる歌」の意味になる。

(54) ゴム

gum は材料としてのゴム、ゴムの木、チューインガム (chewing gum) な
どを指し、輪ゴム、ゴムボートなど加工されたものには通例 rubber を
用いる。

(55) コンクール

「コンクール」は「競争」とか「協力」の意味のフランス語 concours から
きている。英語では contest または competition を用いて表
し、photo contest(写真コンクール), piano competition(ピアノコンク
ール)のようにいう。主にゴルフで使う「コンペ」は competition を日
本式に省略したもの。

(56)コンセント

電気プラグ用の差し込みを「コンセント」というのは和製。「同心プラグ」の意の concentric plug が語源という説もあるが、真偽のほどは不明。いずれにしても consent や concent では通じない。英語では socket が一般的であるが、「電球用ソケット」と区別するために wall socket ということもある。アメリカでは (wall) outlet, (plug) receptacle, イギリスでは (power[electrical]) point ともいう。

(57)コンプレックス

英語の complex には「劣等感」の意味はなく、「強迫観念, 異常心理, 複合」の意味で使われる。したがって、日本語でいう意味のときは inferiority (劣等) をつける必要がある。「優越感」は superiority complex [feeling] という。ただし、形式ばらない口語英語では complex が「過度の嫌悪[恐怖](感)」の意味で用いられる。

(58)サービス

英語の service は「接客, 奉仕」の意味が基本で、「値引き」とか「無料」の意味はない。したがって「値引き」の意味では discount を、「無料」の意味では free などを用いる必要がある。店の人が言う「これはサービスです」は This is a complimentary gift. とか This is free. である。なお、レストランでの有料の「サービスランチ[ディナー]」は today's special と表現する。

「アフターサービス」は after-sales service。(文脈により単に service でも表わせる。

(ex) The store provides [gives] very good after-sales service.
=The service at the store is great
その店はアフターサービスが行き届いている

(59)サイズ

日本語の「サイズ」は靴・帽子・シャツ・人体など、あまり大きくないものを指して用いることが多いが、英語の size は the size of a country [a city, a swimming pool] のように、日本語ではふつう「サイズ」では表さない大きさのものまで指す。

(60)サイン

名詞の sign は「しるし, 兆候, (星座の)…座」の意味で、「署名」の意味はない。したがって、「サインしてください」のつもりで "Give me your sign." とすると、「あなたの星座を教えてください」の意にとられる可能性がある。なお、動詞の「サインする」の意味では sign を使える。

(ex) He signed the paper. 彼はその書類に署名した
書類にする「サイン」は signature で、有名人からもらう「サイン」は

autograph という。「サイン帳」は autograph album[book],「サイン会」は autograph session,「サインボール」は autographed ball という。野球用語の「サイン」(合図)は sign または signal である。数学用語の「サイン」(正弦)は sine とつづる別の語。

(61)サスペンス

英語の suspense は日本語の意味と異なり,ある事が決まらなかつたり発表されないことからくる「気がかり,不安な状態」を指し,「なぞに包まれたもの」の意味はない。いわゆる「サスペンスもの」に当たる表現は mystery または thriller である。suspenseful story は「先がどうなるかわからず,はらはらする小説」。

(62)サボる

「サボる」は「サボタージュ」からきているが,英語では cut school, cut a class, play truant, play hooky とする。

(62)ジャー

「魔法びん」や「(ご飯などの)保温器」を「ジャー」といっているが,英語の jar は単に「広口のびん」のことで,「保温容器」の意味はない。「魔法びん」の意味なら vacuum bottle, flask, thermos などとしなければならぬ。「炊飯ジャー」の意味ならば rice cooker and warmer とする。

(63)シャープペンシル

「いつもとがっている」の意の eversharp を社名にした米国の Eversharp 社がこの語の起源と思われるが, sharp pencil は和製英語。英語では mechanical pencil, automatic pencil という。

(64)ジャスト

英語の just と日本語でいう「ジャスト」には次のようなずれがあることに注意。「2時ジャスト」は exactly 2 o'clock か, 2 o'clock sharp がよい。just 2 o'clock でもよいが,これは「まだ2時」の意にもなる。「2万円ジャスト」は exactly 20,000 yen で, just は使わない。just 20,000 yen とすると,「2万円だけ,2万円しかない」の意味になってしまう。野球の「ジャストミートする」は just は使わず hit the ball squarely とか, hit the ball right on the nose という。

(65)シャツ

日本語では肌着を指す場合が多いが,この意味では undershirt とい

う。「ワイシャツ」は white shirt なまったものとされるが、英語では単に shirt または dress shirt という。

(66)ジャンパー

スキーや陸上競技の跳躍選手の意味の「ジャンパー」は jumper でよいが、上着の「ジャンパー」は (stadium) jacket や windbreaker が相当する。日本語の「ジャンパー」のもとになった jumper は水夫、漁師、荷揚人夫などの作業用上着を指す語で、タウンウェアのイメージはない。

(67)シュークリーム

フランス語の chou la creme(クリーム入りのキャベツ)に由来するが、英語では cream puff という。「シュークリーム」を英語だと思ってそのまま発音すると shoe cream(靴ずみ)と受け取られるおそれがあるので注意。

(68)ジュース

日本語の「ジュース」と違い、英語の juice は果汁100パーセントのものをいう。したがって炭酸の入ったものや果汁分の少ないものは soft drink とか pop という必要がある。テニスやバレーボールなどの球技の「ジュース」は deuce とつづる別語。フランス語の deux (「2」の意)が語源。

(69)シュート

サッカーやバスケットボールの「シュート」は shot で、「シュートする」という動詞が shoot。「ロングシュート」は long shot、「ジャンピングシュート」は jump shot という。野球の「シュートボール」は screwball で、shoot とはいわない。「ウォーターシュート」、「ダストシュート」は water chute, dust chute で、この chute は「下方へ落とす装置」の意。

(70)ジュニア

日本語の「ジュニア」は中学・高校生ぐらいの若い人を指すが、英語の junior にはこの意味はない。「若い人」の意味の「ジュニア」は young man[woman], youngster(主に少年), young people など表すのがよい。「ジュニア向けのスタイル」などというときは teenage style のように teenage を用いる。英語の junior は「(年齢・身分が)ほかの人より下の(人)」,「(ハイスクールや大学で)最終学年のすぐ下の学年にいる(生徒・学生)」などの意の形容詞または名詞として用いる。

(71)ショートケーキ

shortcake の short は「短い」ではなく、「(バターなどがたくさん入っていて)さくさくする」の意。日本の「ショートケーキ」に似ているが、スポンジケーキの代わりに scone と呼ばれる菓子パンを使ったものが多い。英では shortbread(スコットランド原産のバタークッキーの一種)の意でも用いる。日本でいう「ショートケーキ」は strawberry layer cake とか, sponge cake topped with strawberries などとする。

(72) ジョッキ

日本語の「ジョッキ」は取っ手のついたビール用の容器を指すが、これは英語の jug から出た語とされる。英語では一般に mug, stein(陶製の), tankard(ふたつきの)などが用いられる。英語の jug はイギリスではジョッキ型の水差し (pitcher) や牛乳容器 (milk container) などを指し、アメリカでは細口で取っ手のついた、通例コルクで栓をする陶製またはガラス製のつぼ[かめ]を指す。

(73) シルバー

日本では「シルバー」で老齢を表すことが多いが、英語では silver でなく golden や gray を使う。したがって、「シルバーエイジ」は the golden age となる。ちなみに、「老人パワー」は gray power である。(この gray は「白髪の」の意)。「シルバーシート」は表示としては priority[courtesy] seating(優先席)という。一つの「シルバーシート」は a seat for senior citizens and handicapped passengers という。

(74) ジンクス

jinx は「縁起の悪い事・物」の意。したがって、「…というジンクスがある」という文の英訳に jinx は使えない。

There is a saying S+V ~: ~と言われている

There is a superstition[a popular belief] that S+V ~:

~だと信じられている

のように表現する。

(75) シンボルマーク

シンボルマークは symbol mark でなく、単に symbol とするか mark, emblem, logo, trademark などの語を使う。

(76) スキンシップ

肌の触れ合いによる交流という意味の「スキンシップ」は skin(皮膚)と、OO-ship(状態, 関係)から作った和製語とされている。英語では physical contact, body[bodily] contact, さらに広い意味では

personal contact, close contact などというが、いずれの表現にも「スキンシップ」のもつ「ぬくもり」のニュアンスはない。

(77)スケール

scale は「規模, 目盛り, 尺度」などの意味をもつが、人間については用いない。「スケールの大きい人」は person of high caliber とか broad-minded [big-hearted] person などという。重量を計る「スケール」は scale(s) だが、「ものさし」は ruler, 「巻尺」は tape measure という。

(78)スタイル

英語の style は「(建築・文芸などの)様式」「(服装などの)型」「文体」などを指すことば。したがって「(人が)スタイルがいい」というときにこの語は使えない。figure などを使って例文のように表す。

She has a slender [good] figure.

彼女はすらりとした[いい]スタイルをしている

keep one's figure 太らないですらりとした容姿を保つ。

身なりに凝る人を指して「スタイリスト」というが、この場合も stylist は使えない。stylist は「名文家」あるいは「(服飾・髪型などの)デザイナー兼コンサルタント」の意。後者は日本でも「スタイリスト」の語が定着してきている。「身なりに凝る人」「おしゃれ」の意味のスタイリストは dandy, dude, fashion-conscious person などといえる。

(79)スチュワーデス

英語の stewardess からきている。一時は airline hostess と呼ばれたこともあったが、最近ではあまり使われない。最近では stewardess, airline hostess のような性別を明示する語を避けて flight attendant を用いる航空会社もある。なお、スチュワーデス、パーサー (purser) などの乗務員をまとめて cabin crew と呼ぶ。機内でスチュワーデスに声をかける場合は

"Excuse me, stewardess."

でよい。

(80)ストーブ

日本語の「ストーブ」は暖房器具を指し、英語の stove にもその意味はあるが、その場合は potbelly [potbellied] stove (だるまストーブ) のような旧式のものを指すことが多い。日常的には stove は cooking stove, cookstove (ともに料理用レンジ) の意味で用いられる。暖房器具を指す最も一般的な語は heater である。

(81) スナック

英語の *snack* はサンドイッチやケーキなどの「軽食」の意。ポテトチップスやせんべいなどのスナック菓子ではない。また、そのような軽食とソフトドリンクを供する店を *snack bar* という。これは、日本の立ち食いそば屋のような店で、酒類は置いてないのがふつう。日本では酒類を出す店を「スナック」と呼ぶが、これは *snack bar* でなく、*pub* あるいは *tavern* というべきである。

(82) スパルタ式

英語の *Spartan* からきているが、この語は *Spartan simplicity* [*frugality*] (スパルタ式簡素さ[つましさ]), *Spartan way of life* (スパルタ式の簡素に徹した生活) などのように、主に生活態度や食事内容を指すのに用い、日本語の「スパルタ式」にあるような、「ときには体罰さえ辞さないような厳しさ」といった含みはない。日本語の「スパルタ式」は用例のように表現するのがよい。

impose rigid [severe/ harsh] discipline on one's child

スパルタ式教育(=厳しいしつけ)をする

That school is well known for its harsh discipline.

あの学校はスパルタ式教育(=厳しいしつけ)で名高い

(83) スポーツ

日本語では「(主に勝敗を争う)運動」のことを「スポーツ」というが、英語の *sport* は狩猟、魚釣り、競馬などを含むもっと幅の広いことばである。したがって *sportsman* もハンターや釣り師を含む。

日本語の「スポーツマン」にぴったりの語はないので

He[She] is good at sports.

とするか、*athlete*(運動選手)を用いて

He[She] is a good athlete.

などと表現する。なお、「スポーツマンシップ」は *sportsmanship* だが、*man* が「男性」を連想させるのを避けて、代わりに性差のない *fair play* を用いる傾向がある。「スポーティー」は *sporty* だが、日本語とちがって「けばけばしい」「遊び好きな」の意味があり、必ずしもよいイメージではない。

(84) スマート

日本語の「スマート」は人の体つきについて用いることが多いが、英語の *smart* は主に「りこうな、抜け目のない」の意味である。「細身の、やせている」の意味では *slim* や *slender* を、「均整がとれた」の意味では *shapely* を用いる。

She looks smart in black.

という文は、「彼女は黒を着ると細身に見える」の意味ではなく、「黒を着るとエレガント[いき]に見える」の意。「スマートな服装」は

stylish[chic] dress

と表現する。

(85)セールスマン

英語の salesman は「外交販売員」だけでなく、「店員」も指すことば。日常的には前者を sales representative, 後者を salesclerk(米), shop assistant(英)と呼んで区別している。女性の「店員」は saleswoman, saleslady, salesgirl などというが、最近では性別の明示を避けて salesperson という言い方が好まれる。複数形は salespeople。

(86)セックス

英語の sex の第一義は「性別」で、書類の sex 欄には、男性は M(Male) 女性は F (Female) と書く。最近では、社会的・文化的な意味での性差を gender という。「性行為」は sexual intercourse, sex act, 動詞表現では have sex with, make love to[with] A(人) 等を用いる。おとなは子どものいるところでセックスの話をする場合, sex を s-e-x とつづり字で言うことがある。

(87)ゼッケン

運動選手が胸や背中につける番号布の「ゼッケン」の語源はドイツ語説、イタリア語説などがあり確定しないが、英語では number cloth という。ゼッケン番号は athlete's number, player's number など。「ゼッケン10番のランナー」は the runner wearing number 10 とする。

(88)セット

「そろいの物」の意味では set は日本語の「セット」よりも意味が狭く, a coffee set(コーヒーセット), a set of golf clubs(ゴルフクラブ1セット)など、一組[一式]を成すものに使用に限られる。家具の一そろいの場合は suite を用いて a bedroom suite(寝室家具セット), a three-piece living-room suite(応接3点セット)のようにいうことが多い。日本的な広い意味で、例えば喫茶店などでの「ケーキセット」は cake with coffee[tea] のようにいう必要がある。また、「セット旅行」は package tour である。

(89)センス

「繊細な感覚」の意味では sense でよく
sense of humor: ユーモアのセンス
sense of beauty: 美的センス
business sense: 経営のセンス
literary sense: 文学的センス
musical sense, sense of music: 音楽的センス

などのようにいう。「服装のセンスがいい」などという場合のセンスは「趣味,好み」の意味なので, sense でなく taste を用いる必要がある。

He has no musical sense./ He has no ear for music.

彼は音楽のセンスがない

She is dressed in good[poor] taste.

彼女は服装のセンスがいい[悪い]

He has a good sense of humor, doesn't he?

彼,なかなかユーモアのセンスがあるね

She has no sense of beauty./ She has no eye for beauty.

彼女には美的センスがまるでない

(90)ソース

日本語の「ソース」は Worcester(shire) sauce(ウスターソース)を指すのがふつうだが,英語の sauce は料理にかけ,風味を引き立てる液状またはクリーム状の調味料一般を指す。したがって,apple sauce,cranberry sauce,tomato sauce などのほか,アイスクリームにかける chocolate sauce なども sauce であり,サラダ用のドレッシングやマヨネーズも sauce の一種である。日本の「しょうゆ」は soy sauce というが,最近では shoyu sauce や shoyu が英語として使われ始めてきている。「ニュースソース」など「出所」を意味する「ソース」は source とつづる別の語。

reveal[disclose, identify] one's source

ニュースソースを明らかにする

(91)ソフト

日本語では人の話し方や歌い方を「ソフト」と形容することがあり,英語でも soft voice のようにいうが,英語の場合は「静かな[優しい]声」の意味であって,日本語の「ソフト」とは少し意味がずれる。

日本語では人の物腰も「ソフト」で形容することがあるが,英語の soft はその場合,否定的な意味になることが多い。例えば

soft man

は「めめしい男」であり

He is soft (in the head).

は「頭が少し足りない」の意味である。したがって,「ソフトムードの俳優」は gentle[quiet] actor とか mild-mannered actor のようにいう必要がある。「ソフトタッチ」は soft[smooth] to the touch という。soft touch とすると「だまされやすい人,カモ」の意味になる。

(92)ターミナル

日本語では「ターミナルビル」「ターミナルデパート」「ターミナルホテル」のように形容詞的に使うことが多いが,これらはいずれも和製語で,英語の terminal の用法とは異なる。terminal は「始発[終着]駅

(の建物)]を指し, bus terminal, air terminal のように用いる。
鉄道駅の「ターミナルビル」は
building built above a railroad terminal
「ターミナルデパート」は
department store at a railroad terminal
「ターミナルホテル」は
hotel at a railroad terminal[station]
のように説明的という必要がある。

(93) ダイニングキッチン

dining room(食堂)と kitchen(台所)から作られた和製語。英語国民にとっては kitchen はあくまで「台所」であって, そこで食事をするという発想はない。日本の「ダイニングキッチン」を表すには, 例えば kitchen with a dining area(食事をする場所の付いた台所)とか, kitchen-cum-dining room(台所兼食堂)とか, kitchen-dining room combination(台所と食堂の組み合わせ)などとするが, どれも英語として定着した表現ではない。

(94) ダウン

英語の down と一致する場合と, しない場合とがある。ボクシングの「ダウン」は一致する例で, 「彼は第1ラウンドでダウンした」は
He was downed in the first round.
と down を他動詞として使う。同じ意味で
be knocked down
be floored
ともいう。「成績がダウンする」というときの「ダウンする」には fall や drop を使う。
My grade in English failed. 英語の成績が落ちた
あるいは以下のように言う。
I have got a better[worse] grade[mark] in English this term.
今学期は英語の成績が上がった
また, 「かぜでダウンする」は come down with a cold という。「イメージダウン」「コストダウン」などは和製語。それぞれ
lower the image
reduce the cost
などとする必要がある。「スピードダウン」「ペースダウン」はともに
slow down
となる。

(95) タッチ

「わたしはその計画にタッチしていない」は
I'm not involved in the project.
I have nothing to do with that plan.

などと表現し、touch は使わない。
野球の「タッチ(する)」も touch ではなく、tag という語を用いる
(tag は「鬼ごっこ」が原義)。「タッチアウト」も tag out が正しい。
また「(犠牲フライによる)タッチアップ」は tag up という。
「ワンタッチの」は automatic, push-button, instant などの形容詞を使う。

(96) ダメージ

名詞の damage は「受けた損害,被害」の意味なので、「…にダメージを与える」は give damage to ではなく、cause[do] damage to の形をとる。「ダメージを受ける」は be damaged よりも be hurt がふつう。特に「人」が主語のときは be damaged は使えない。

(97) タレント

talent は「才能」の意。「才能のある人」の意味もあるが主に集合的用法で、1人1人を指すことは、まれ。日本では映画やテレビに出る有名人のことを「タレント」といっているが、これに当たるのは personality, celebrity, performer, entertainer, star など。
「テレビ[ラジオ]タレント」というときは TV[radio] を前につければよい。「タレント教授」は professor who often appears on TV(よくテレビに出る教授)、「タレント議員」は entertainer-turned Diet member(タレントから転向した議員)のように説明する。

(98) ダンスパーティー

単に dance という。英語の dance party は日本語の「ダンスパーティー」と異なり、「パーティーが中心でダンスもできるもの」の意。アメリカの高校、大学ではクラス主催のダンスパーティーを特に prom と呼ぶ。また、正式の舞踏会は ball である。

(99) ダンプカー

「ダンプカー」は英語では dump car とはいわず、dump truck とか dumper truck という。イギリスではまた tip-truck とか tipper lorry ともいう。dump car という英語も存在するが、これは「(石炭などを運搬する)傾斜台付き貨車」のことである。

(100) チェック

「照合する,点検する」の意味のチェックは check でよい。照合の印であるチェックマークも check という。この印は日本ではときに「バツ,不可」の意で用いるが、英米ではほとんどの場合「OK」を表す。「注意すべき点」の意味の「チェックポイント」は points to check とする。checkpoint は道路の「検問所」である。

(101)チップ

日本語の「チップ」には tip と chip が相当するので注意が必要。「心付け」の意味では tip である。野球用語の「チップ」も tip で、「ファウルチップ」は foul tip または tip foul という。ポテトチップスの「チップ」は chip で、通例 chips と複数形にする(イギリスでは crisps といい, chips は細長い French fried potatoes のほうを指す)。その他, chip はポーカーなどの「点数板」、コンピューターの「プリント小片」の意味でも使われる。

(102)チャーミング

日本語では主に若い女性について「チャーミング」というが、英語の charming は表面的な美しさではなく、物腰や態度が「感じがいい、人を引きつける」の意で、女性だけでなく、男性や老人についても用いられる。したがって、「チャーミングな女の子」の訳は charming girl よりも pretty girl のほうが場合によっては適切。

(103)チャレンジ

日本語の「チャレンジ」は人が人に挑戦する場合にも、人が(難しい)事に挑戦する場合にも用いるが、英語の challenge は事物が人に、あるいは人が人に挑む場合に用いる。日本語の「チャレンジする」には try を使ったほうが適切な場合が多い。例えば、「山登りにチャレンジする」は try to climb the mountain でよい。「チャレンジ精神が旺盛だ」は be full of fight とか be enterprising という。

(104)ツアー

日本語ではもっぱら「(団体での)観光旅行」の意味で「ツアー」といっているが, tour は本来何箇所かに立ち寄る「周遊旅行」の意味であって、「団体旅行」の意味はない。また観光旅行に限らず、「視察旅行」や、スポーツチーム・劇団などの「巡業」の意味でも用いる。日本語でいう「ツアー」は organized tour, group tour, package tour などのようにいう必要がある。

(105)デコレーション

日本語ではお祝い用のケーキをすべて「デコレーションケーキ」というが、これは和製語。英語では用途によって birthday cake(誕生日の), Christmas cake(クリスマスの), wedding cake(結婚式の)のように「(はなやかに飾り立てた)デコレーションケーキ」の意味では fancy cake を用いる。

(106)デッドボール

英語の dead ball はファウルなど一時的にプレーが中断するボールのことで、日本でいう「デッドボール、死球」の意味ではない。英語では
The batter was hit by a pitch. 打者は投球に当たった
のように動詞で表現し、通例、名詞ではいわない(あえて訳せば a pitch which hits the batter となる)。「死球を受けた打者」は
hit batsman[batter]
で、「死球による出塁」は記録上 hit by a pitch を略して HBP または HP という。

(107)デパート

デパートは英語の department からきているが、department は「部門、売場」の意味であって百貨店のことではない。「百貨店」の意味では department store と必ず store をつける。イギリスでは big store, the stores ともいう。

(108)デマ

デマはドイツ語の Demagogie から出た語。英語にも demagogy という語があるが、これは「政治的な民衆扇動」の意である。「でたらめなうわさ、中傷」「人をそそのかすためにわざと流すうその知らせ」の意では false rumor や wild rumor などを用いる。

(109)デリケート

「デリケートな(=微妙な、扱いにくい)問題」は delicate matter であるが、「デリケートな神経」という場合の「デリケート」は「鋭敏な」の意味だから sensitive とする必要がある。人について delicate を用いると「きゃしゃな」「虚弱な」の意味にとられやすいので注意が必要。

(110)ドクター

大学院の博士課程を指す「ドクターコース」は英語では doctoral program とか doctorate program といい、通例 course は用いない。ボクシングで、負傷した選手に対して(医師の勧めで)試合を中止することを「ドクターストップ」というが、これも和製語。対応する英語はなく、
the doctor's order to stop the fight
のように説明的という。

(111)ドッキング

比喩的に「…を結合させる」の意味で「ドッキングする」ということがあるが、この「ドッキング」には
put ... together

join[link] ... up together
をあてる。したがって、「彼らはその2つのプロジェクトをドッキングさせた」は
They put the two projects together.
They joined[linked] the two projects up together.
のようになる。

(112) トップ

「最上位の」「最初の」の意味では top も使えるが first, best, leading, head などのほうが適切な場合も多い。例えば野球の「トップバッター」は top (of the order) ともいうが、ふつうは leadoff (man) または the first batter という。top batter では「最優秀打者」ととられる可能性がある。また、「トップメーカー」は leading manufacturer がよい。

one of the leading [top] firms in this line.

この業種ではトップクラスの商社の一つ

a first-rate[topflight] criminal lawyer

トップクラスの刑事弁護士

車の「トップギア」はイギリスでは top (gear)だが、アメリカでは high (gear)という。「ギアをトップに入れる」は

shift[change] into high (gear)

となる。

(113) ドライ

英語の dry は「乾燥した、無味乾燥な、そっけない」の意味であって、日本語の「ドライ」の用法とは一致しない。「ドライに処理する」は

treat in a businesslike manner

「ドライな態度」は

realistic[unemotional] attitude,

「彼女はドライだ」は

She's all too practical.

などとなる。「ドライアイス」は dry ice,「ドライクリーニング」は dry cleaning,「ドライな(=辛口の)ワイン」は dry wine でよいが、「ドライフラワー」は dried flower,「ドライミルク」は dried[dry/powdered] milk という。また、「ドライカレー」は単に curried rice でよい。

(114) ドライブウェイ

英語の driveway は単に drive ともいい、表通りから私邸の車庫や玄関までの道、あるいはホテルなどの車回しを指す。ただし、カナダ英語では driveway は日本語と同様、「自動車道路」の意味で用いられる。

(115) トランプ

「トランプ」は英語の trump からきているが、この語は「切り札」の意味しかない。「トランプ遊び」は card playing といい、「トランプ1組」は a pack of cards である。1枚のカードは a (playing) card という。

(116) トレーナー

英語の trainer は「訓練する人，調教師」のことで、衣服は意味しない。日本でいう「トレーナー」に当たるのは sweat suit(シャツとズボンの上下)である。training pants もいわゆる「トレパン」ではなく、幼児の排便のしつけ (toilet training) のためのパンツを指す。日本語の「トレーニングパンツ」に当たるのは gym slacks である。

(117) ナイーブ

日本語の「ナイーブ」は「繊細で感じやすい」という意味で使われるが、英語の naive は「世間知らずでだまされやすい、幼稚な」といった否定的ニュアンスで使われることも多い。Don't be so naive! と言えば「あんまり幼稚なことを言う[する]んじゃないよ」の意である。したがって、繊細なナイーブさをいう場合は innocent(純粹無垢(むく)な)や sensitive(感じやすい)などを用いるほうがよい。

(118) ナプキン

食卓で使う「ナプキン」は英語でも (table) napkin というが、イギリスではこの語は社会的上層階級に属する人たちによって、あるいは高級レストランなどで好んで用いられ、一般庶民は serviette という語を用いることが多い。アメリカでは sanitary napkin(生理用ナプキン)を napkin ということもあるが、単に napkin といえばふつうは table napkin のことである。

(119) ニーズ

需要とか要求の意味で「ニーズ」というが、これは英語の need(必要性)の複数形の発音からきている。英語でも the needs of the age(時代の要求するもの)という言い方はするが、demand や request を使ったほうが多い場合も多い。特に demand は great, much, poor など、程度を表す形容詞を伴う場合に多く用いられる。

(120) ニュース

「ニュース」は英語の news からだが、発音は[nju:z] となる。また「1つのニュース」は a news ではなく a piece[an item] of news または a news item とする必要がある。ニュースキャスターのことを日本語で「キャスター」と省略することがあるが、英語の caster は「投げる人」「脚輪」などの意にしかならない。newscaster が正しい英語である

(イギリスでは newsreader, reader, presenter と呼ばれる)。ニュース番組のまとめ役の総合司会者は anchorman(女性は anchorwoman) と呼ばれるが、最近では男女差のない anchorperson という言い方が好まれる。

(121)人間ドック

体の検査のために病院に入ることを船が修理のためにドックに入ることにとたえて「人間ドック」というが、これは日本的。英語では dock は使わず、physical checkup や examination を用いる。

(122)ヌード

nude は主に芸術性やわいせつ性を問題とする場合に用いられる語。したがって、例えば子どもが裸で泳いでいるような場合には用いない。このような場合は swim naked のように naked を用いる。「ヌードショー」は和製語で、英語では strip show, または striptease という。「ヌードダンサー」は stripper または stripteaser。

(123)ネームバリュー

英語の name(名前)と value(値打ち)を組み合わせた和製語。name value では通じないので fame(名声)を使って表す。また、英語の name そのものに「名声、評判」の意味があるので、have a name でも「ネームバリューがある」の意味を出すことができる。

(124)ネクタイピン

日本語の「ネクタイピン」は上から刺して留めるタイプと横からはさんで留めるタイプの両方に使われるが、英語では前者は tiepin, tie tac(k), 後者は tie bar, tie clip, tie clasp と区別する。

(125)ネック

進行の障害になるものを指す「ネック」は英語の bottleneck の前半を省略したもの。bottleneck は文字どおり「びんの首」であり、転じて「狭い通路障害」を意味する。「…がネックだ」に当たるのは
be a bottleneck
である。

(126)ネット

「網」の意味では net でよいが、スポーツで使われる「ネット」は和製語が多いので注意が必要。例えば、テニスや卓球の「ネットイン」は touch[hit] the net and fall in(ネットに触れて相手コートに入る)、バレーボールの「ネットタッチ」は touch[hit] the net のように動詞

で表現する。放送用語の「ネット」は「放送網」の意味の英語 network を略したもので、「全国ネット」は national television network となる。「インターネット」を略して「ネット」ということがあるが、これは The internet.

access the Internet.

インターネットにアクセスする
retrieve information on the Internet.

インターネットで情報を検索する
send e-mail via Internet.

インターネットで電子メールを送る

(127) ノイローゼ

「ノイローゼ」はドイツ語の Neurose(神経症)が語源。英語では neurosis であるが、これは医学用語で、一般には nervous breakdown(神経衰弱)という。

(128) ノーカット

「ノーカットの映画」は uncut movie(短くされていない)とか、uncensored movie(検閲済みでない)のようにいう。

(129) ノンシュガー

「砂糖の入って[を使って]いない」という意味の和製語。英語では sugarless とするか、「…のない」の意の -free を付けて sugarfree とする。ノースリーブ sleeveless という形容詞がこれに相当する。「ノースリーブのブラウス」なら sleeveless blouse である。ノーブラ 英語では braless という。「ノーブラでいる」は don't wear a bra でよい。

(130) ノルマ

「割り当てられた仕事」の意味で使う「ノルマ」はロシア語の norma からきている。英語では assignment または assigned work で、「自分のノルマ」は one's assignment となる。数字や分量を指す場合の「ノルマ」は quota というが、これは生産・販売、輸出入などの分野で用いられる語である。

(131) バーゲン

日本語では「バーゲンセール」を略して「バーゲン」というが、英語では逆に bargain を略して単に sale ということが多い。英語の bargain は「掘り出し物、買い得品」の意であって、bargain だけでは「特価売り出し」の意味にはならないことに注意。

(132)パート

「パートタイム」を略して「パート」としているが、part だけでは英語の part-time の意味にはならない。人を指す場合は part-timer あるいは part-time worker, 仕事を指す場合は part-time job という。work part-time(パートで働く)のように副詞としても使う。

(133)ハイ -

「ハイ -」のつくカタカナ語は多いが、そのまま high... とはできないものも多いので注意を要する。ハイウェイ highway は「公道, 街道, 幹線道路」のことで、「高速道路」とは限らない。「高速道路」に相当する語にはアメリカでは expressway, freeway, speedway, イギリスでは motorway などがある。ハイセンス センスが高級であることを high sense といっても通じない。この場合の「センス」は「趣味, 好み」の意味であるから, taste を用いて good[excellent;refined] taste などとする。high taste は不可。ハイソックス ひざ下までの寸法の丈の長い靴下を「ハイソックス」というのは和製語で、英語では knee socks という。ハイヒール かかとの高い婦人靴を「ハイヒール」というが、英語では high heels と複数形になる。high-heeled shoes といってもよい。

(134)ハイティーン

ティーンエージャーのうちで年齢の高い者のことを日本語で「ハイティーン」としているが、英語ではふつうは late teens(16~19歳)という。high teens という英語もあるが、まれ。一方「ローティーン」は early teens(13~15歳)という(low teens はまれ)。ともに teens となっているのは複数の年代を指すためである。10歳くらいから12歳くらいまでの子どもを指して preteen ということもある。

(135)ハウツー

「…のやり方」の意味で「ハウツー…」というのは英語の how to からきているが、注意を要するのは to のあとに動詞がくることである。したがって how to tennis はまちがい。how to play tennis とする。「ハウツーもの(の本)」は a how-to book でよい。

(136)バキュームカー

真空 (vacuum) を利用して糞尿(ふんによろ)を汲み上げる車が「バキュームカー」だが、和製語。vacuum cleaner(電気掃除機)からヒントを得て作られたと思われる。下水道の普及率の高い英米には日本のような車は少ないが、夜間に汚いを運ぶ車に night cart がある。cesspool cleaner truck とか、美化して honey wagon(はちみつ車)と

いうこともある。

(137) パジャマ

「パジャマ」は英語では pajamas と複数形で使う。ただし a pajama coat(パジャマの上着), pajama trousers(パジャマのズボン)のように形容詞的に使う場合は単数形。ほかに a pajama top, pajama bottoms という言い方もある。口語では pj's ともいう。

(138) バック

「バック」は「後部」、「背景」、「背泳ぎ」、「後退」などの意で用いるが、英語の back がこれらにそのまま当てはまる場合はむしろ少ない。例えば「ギアをバックに入れる」は

put the gear into reverse

shift into reverse

であるし、「富士山をバックに山中湖を描く」は

paint Lake Yamanaka against a background of Mt. Fuji

のようにいう。水泳の「バック(=背泳ぎ)」は backstroke である。

「バック」にはまた「バックスクリーン」、「バックネット」などのような和製語があるので注意が必要。英語では前者は centerfield screen, 後者は backstop という。

(139) バトン

「バトン」は baton でよいが、「バトンタッチ」、「バトンガール」は和製語。「バトンタッチ」は baton pass, 「バトンガール」は baton twirler が正しい。なお、楽隊の先頭に立ってバトンを回す女性は drum majorette と呼ばれる。

(140) パパ

英語の papa からだが、この語はイタリア系アメリカ人など一部の人を除いてはあまり使わない。ふつうは dad, daddy という。また呼びかけに使う場合は、固有名詞扱いにして Dad, Daddy と大文字で始める。女性がパトロンのことを「パパ」と呼ぶことがあるが、日本独特。ただし、若い女性や愛人などに盛んに贈り物をする金持ちの、特に年配の男性のことを sugar daddy というが、これは日本語の「パパ」に似ている。

(141) ハプニング

計画的に進められている式や催し物などの最中に起こる思いがけない出来事のことを「ハプニング」といっているが、英語の happening は単に「出来事、事件」の意であり、日本語の「ハプニング」に含まれる意外性のニュアンスはない。演劇用語としての happening は劇の筋とは

無関係な即興的演技(観客の飛び入り参加もある)をいう。

「卒業式の最中にハプニングが起こった」は

An unexpected thing happened during the graduation ceremony.
のようという。

(142)ハヤシライス

「ハヤシライス」の語源ははっきりとはわかっていないが、一説によると、「ハヤシ」は明治2年にこれを創始した早矢仕有的(はやしゆうてき)という実業家の姓に由来するという。また別の説によると、「ハヤシ」は hashed の発音に由来するという。つまり、明治時代にこま切れ肉(hashed meat)のことを「ハヤシ肉」とっていたので、そこからハヤシ肉と野菜を独特のソースで煮込んで、カレーライスのように皿盛りのご飯にかけて食べる料理をこう呼ぶようになったという。いずれにしても日本独特の料理であり、hashed rice では通じないので、説明的に訳すしかない。

rice with hashed meat[beef]
hash and rice

(143)バンガロー

英語の bungalow からきているが、これはもともとインドのベンガル地方の住宅で、暑さと湿気を防ぐために作られた風通しのよい平屋を指す。今ではこれにならったベランダのある平屋住宅が bungalow と呼ばれる。

日本のキャンプ場などにある「バンガロー」は cottage のほうがふさわしく、もっと粗末なものは hut または cabin がよい。

(144)パンク

「パンク」は英語の puncture の日本式省略形だが、この語は「(くぎなどで穴をあけて)パンクさせる」の意。したがって名詞としての意味も「穴あきパンク」である。破裂によるパンクは blowout といい、パンクしたタイヤは flat とか flat tire と呼ばれる。

音楽の「パンクロック」は punk rock でよい。

(145)パンスト

「パンスト」は「パンティーストッキング」を省略したもの。panty stocking という英語もあるが、一般的ではない。英語ではふつう panty hose, tights という。なお hose は消火用の「ホース」と同じ英語だが、ストッキングの意味のときは集合名詞で、単数形でよい。

(146)パンツ

pants はイギリスでは下着のパンツを指し、アメリカではズボンを指

すことが多いが、最近ではアメリカの用法がイギリスにも及んでおり、文脈によっていずれの意味にもなる。日本で「パンツ」が「ズボン」の意味で使われるようになったのもアメリカ用法の影響。誤解を避けるためには下着のパンツは *underpants* といえよ。日常的には *briefs* とか *shorts* ともいうが、これらはすべて男性用のパンツで、女性用のものは *panties* という。

(147)ハンデ

「不利な条件」の意味の「ハンデ」は「ハンディキャップ」の日本式省略形。英語では必ず *handicap* とする。「障害」という広い意味ならば *obstacle* を使うこともできる。

(148)ハンドル

「ハンドル」は *handle* からきているが、用法は全く異なる。英語の *handle* は「持つところ」の意で、具体的には握りの部分に限られる。自転車やオートバイの「ハンドル」は *handlebars* といい、その両端の握りの部分が *handle* である。車のハンドルは輪状になっているので *steering wheel* という。ドアのハンドルは *handle* でよいが、丸い取っ手は *knob* である。

(149)パンフレット

日本では宣伝用の一枚刷りの紙から、数ページ、あるいは十数ページの小冊子までを含めて「パンフレット」と呼んでいるが、英語の *pamphlet* は数ページあってとじたものを指し、一枚刷りのものは *leaflet* という。「パンフレット」の中でも、営業用に写真・イラストなどを掲載したもので *pamphlet* より上等なものは *brochure* という。

(150)ピーアール

日本語では宣伝広告全般に関して *PR* といっているが、この略語の元である *public relations* は本来「広報宣伝活動」をひっくり返した言い方なので、「宣伝」には *publicity*、「広告」には *advertisement* と区別するほうがよい。新製品や新人などの「組織的・集中的ピーアール」の意味では *buildup* という語も使える。

(151)ビジネスライク

日本語の「ビジネスライク」には「私情をはさまない、冷たい」というニュアンスが含まれることがあるが、英語の *businesslike* は「てきぱきした、きちょうめんな」の意で、否定的なニュアンスはない。したがって、この日本語を英訳するときにはことばを補うほうがよい。

(152) ビジネスマン

英語の *businessman* は「実業家」または「会社での地位の高い人、経営に携わる地位の人」を指すことが多いが、日本語と同様「会社員」の意味で用いられることもある。最近ではビジネスの世界に女性も多く進出しているため、*businessman* は男性について用い、女性には *businesswoman* を用いるほうがよい。なお、性差のない言い方として *business person* も好まれる。総称としては *business people* を用いるのがよい。

(153) ヒステリー

ドイツ語の *Hysterie* から日本語になったことば。英語では *hysteria* または *hysterics* という。*hysteria* は神経症の1つとしての「ヒステリー」を指す専門用語で、「ヒステリー患者」は *hysterical* という。一方 *hysterics* は「ヒステリー発作」の意の一般語で、*have hysterics* のように用いる。形容詞形も *hysterical*, *hysterical* と2通りあるが、*hysterical* のほうがふつう。*hysterical young woman*(ヒステリー症状の若い女性)のように用いる。

(154) ピックアップ

日本語の「ピックアップ」と英語の *pick up* には意味のずれが生じているので注意を要する。日本語の「ピックアップ」は「選ぶ、えり抜く」の意味なので、これには *pick out* や *choose* を用いるのがよい。英語の *pick up* は「(物を)拾い上げる」、「(人を)車に乗せる」の意味で用いることが多い。

(155) ピッチ

「ピッチが早い」とか「ピッチを上げる」という場合の「ピッチ」は「速度」の意味だが、英語の *pitch* にはこの意味はない。*pitch* は主に「音の高低」の意である。日本語の「ピッチ」の意味を表すには *pace* や *speed* を用いる必要がある。またボートの「一こぎ」や水泳の「一かき」の意味では *stroke* を用いる。

(156) ヒップ

英語の *hip* は腰から下の左右に張り出した部分のどちらか一方を指す。したがって、「ヒップ…センチ」というときのヒップはその両方を含むから *hips* と複数形になる。座ったとき体の下にくる部分は *bottom* という。*buttock* ともいうが、これも *hip* と同じく左右に分かれた一方を指すことばなので

buttocks と複数形でいう。

(157) ビデオ

video は本来 audio(オーディオ)に対する語で「(テレビの)映像」を指すが、口語では「ビデオ装置」をもいう。ただし、はっきりさせるためには機械は videocassette recorder(略 VCR), または videotape recorder(略 VTR), テープは videotape のようにいう必要がある。

(158) ビデオ

video は本来 audio(オーディオ)に対する語で「(テレビの)映像」を指すが、口語では「ビデオ装置」をもいう。ただし、はっきりさせるためには機械は videocassette recorder(略 VCR), または videotape recorder(略 VTR), テープは videotape のようにいう必要がある。

(159) ヒューマニズム

humanism ということばは、ルネサンス期に神のことばを研究する学者たちに対して、ギリシャ・ローマの先人たちの著作(古典)の研究を行う学者たちを、「人間のことばの研究者」の意味で Humanistica と呼んだことに由来する。したがって、humanism は本来日本語の「人道主義」「博愛主義」を意味することばではなかった。この意味では humanitarianism というのがふつうだが、今日では humanism が humanitarianism の意味で使われることがないわけではない。「ヒューマニスト」(人道主義者)も humanist より humanitarian がよい。

(160) ビル

「ビル」は「ビルディング」(building)の日本式略語。日本では鉄筋コンクリート作りの建物に限って「ビル」ということばを使う傾向があるが、英語の building は単に「建物」の意味。「ボディービル」は body building の日本式短縮形だが、「マネービル」はボディービルをもじって作った和製語で、moneymaking がこれに当たる。

(161) ピンチ

pinch には「危機、窮地」という意味があって、日本語の「ピンチ」と同義だが、日本語ほどは使われない。口語では fix や jam がよく用いられる。ただし、野球の「ピンチヒッター」「ピンチランナー」はそれぞれ pinch hitter, pinch runner でよい。tough situation(つらい状況)や critical time(危機)を使って「ピンチ」の意を表すこともできる。

(162) ピント

オランダ語の brandpunt(「点」の意)の前半を省略したもの。英語では focus という。「ピントが合う」は in focus,「ピントが合わない(ピンぼけ)」は out of focus。

「的はずれている」という意味で「ピントが合っていない」と言うことがあるが、その場合は off the point[mark], not to the point, beside the point などという。

(163) ファイト

「闘志」の意味の「ファイト」には fight, fighting spirit, guts などが相当するが、運動部の選手たちが走りながら叫ぶ「ファイト! ファイト!」を "Fight! Fight!" とするのは不可。"Let's go!" "Keep it up!" "Go, go, go!" などとする。"Fight!" はボクシングの選手に向かっての掛け声ならば可。バスケットボールやフットボールなどのチームスポーツの場合には "Fight, team, fight!" や "Go, team, go!" などのようにいう。

(164) フェミニスト

「フェミニスト」は「女性に優しい男性」の意味で使われることも多いが、英語の feminist は「男女同権主義者」、つまりウーマンリブの人のことである。男性もいるが、女性のほうが多い。

「女性に優しい人」という意味なら gallant や man who is very kind to women などを用いる。

(165) フォアボール

「フォアボール」は和製語。英語では「フォアボールによる出塁」を base on balls(略して BB) という。walk とか pass という言い方もある。「敬遠のフォアボール」は intentional walk[pass] である。

(166) フライ

料理の「フライ」は fry とつづる。名詞用法もあるが動詞用法が主で, fried rice(焼き飯), fried eggs(目玉焼き)のように用いる。

日本語の「フライ」がたっぷりの油の中で揚げることを指すのに対し, fry は「いためる」ことも含む。したがって、「揚げる」ことをはっきりさせるためには deep-fry という動詞を用いる必要がある。

野球の「飛球」を指す「フライ」のつづりは fly である。内野手への「小フライ」は pop fly, または単に pop という。

(167) プラス

数式を表す場合は plus が使えるが、「プラスする」という場合には add(追加する)という動詞を用いる必要がある。英語の plus は前置

詞および形容詞用法が主。

plus は「プラス(=利益)になること」の意でも使われるが、ふつうは advantage や good などを使って表現する。

(168) ブランド

日本語の「ブランド」には「(有名デザイナーによる)高級品」のニュアンスがあるが、英語の brand は単に「商標」の意味である。ただし、brand-name という形容詞は通例「有名ブランドの」の意。

(169) フリー

「フリーキック」は free kick, 「フリースロー」は free throw でよいが、「フリー」に free を当てはめただけでは通じない場合も多い。例えば「フリーダイヤル」や「フリーバッティング」は和製語で、それぞれ toll-free number[call], batting practice のようにいう。また「フリーのジャーナリスト」のような場合も free journalist では日本語の意味を表すことはできない。これは「組織に属さない」の意味だから freelance という語を使う必要がある。

「フリーパス」も「無料の入場[乗車]券」の意味では free pass を使えるが、「…にフリーパスだ」というときは別の表現をする必要がある。

(170) プリン

日本語の「プリン」は英語の pudding の発音がなまったもので、卵・牛乳・砂糖・香料を混ぜて焼いたものを指すが、これは英語では custard pudding という。ふつうカラメル付きであるから、より正確には caramel custard とする。英語の pudding はデザート的一种であり、甘いものから甘くないものまで、多くの種類がある。

(171) プレーボーイ

英語の playboy は自由な時間のたっぷりある金持ちの男性で、女性だけでなくさまざまな快楽を追求する人を指す。つまり、日本語の「プレーボーイ」よりも意味の範囲が広い。したがって、単なる「女好きの男」は playboy と呼ばれる資格はなく、womanizer(女たらし)とか woman chaser(女のしりを追い回す人)などというほうが適切。

(172) フレッシュ

英語の fresh の用法は日本語の「フレッシュ」とは異なる点が多い。例えば「みずみずしい女の子」のつもりで fresh girl とすると「未熟な女の子」の意味にとられやすい。また男性についてこの語を用いれば「なれなれしい、あつかましい」の意になる。Don't be fresh! は「なれなれしくしないでよ」の意味である。また、新入社員を「フレッシュマン」と呼ぶことがあるが、英語の freshman は「(大学や高校の)1年

生」を指すことばで、そのまま社会人には使えない。new[freshman] employee とか new worker, newcomer などという必要がある。

(173) フロント

ホテルの受付を「フロント」というが、これは英語の the front desk の日本式省略。英語では必ず desk をつける。ただし、ホテル内にいるようなときは誤解のおそれはないので、単に the desk でもよい。プロ野球球団の経営首脳陣を指す「フロント」は front office の後半を略したものだが、英語では略せない。自動車の前面のガラスを指す「フロントガラス」も和製語で、英語では、アメリカでは windshield, イギリスでは windscreen ということが多い。

(174) ペーパー

頭に「ペーパー」のつくことばには和製語が多いので注意が必要である。ペーパーカンパニー 税金対策のために作った書類上だけの会社をこういうが、和製語。paper company では「製紙会社」の意味になってしまう。英語では bogus[fictitious] company(いんちき会社)という。ペーパーテスト 英語では written test という。paper test では「紙質検査」の意味にしかない。

(175) ペーパードライバー

免許証は持っているが実際に運転をしていない人のことをこういうが、相当する英語はない。

I have a driver's license but do not drive.

のように説明的にいうしかない。

(176) ベストテン

「ベストテン」を the best ten の語順にするのは日本式。英語では the ten best とする。したがって、「ベストテンに入っている打者」は the ten best hitters となる。

トーナメントなどの準決勝、準準決勝の出場者を「ベストフォー」「ベストエイト」というが、これらの場合英語では best は用いず、それぞれ semifinalists, quarterfinalists という。

(177) ベテラン

英語の veteran はアメリカでは「退役軍人」、イギリスでは「古参兵」の意味で用いられることが多いが、日本語の「ベテラン」と同じ用法もある。ただし、「経験豊富な」の意味では experienced を、「熟達した」の意味では expert を用いるほうがよい。

(178)ベビー

「ベビー」のつくカタカナ語で注意すべきものに次のようなものがある。

(179)ベビーカー

4輪で箱型のものはアメリカでは baby buggy または baby carriage, イギリスでは pram といい、腰かけ型のもはアメリカでは stroller, イギリスでは pushchair という。baby car とすると「小型自動車」の意になる。ベビーカー これとは和製語で、英語では playpen という。pen は「囲い」。

ベビーベッドはアメリカでは crib, イギリスでは cot という。baby bed とはしない。ベビーホテル 乳幼児を一時的に預かる施設をこう呼ぶことがあるが、和製語。child care center というのがよい。

(180)ベランダ

日本語では「ベランダ」と「バルコニー」が混乱して使われているようだが、veranda(h) は一階部分の外に屋根をつけた一種の外廊下、balcony は地面から離れた部分に張り出した屋根のない台をいう。

(181)ヘルス

「ヘルス」のつくカタカナ語のうち、「ヘルスフード」(health food)は正しい英語だが、health center は日英で意味が異なる。日本語の「ヘルスセンター」は大衆向きの娯楽施設を指すが、英語の health center は「保健所」「医療センター」の意である。日本語の「ヘルスセンター」には recreation center が相当する。家庭用の体重計をいう「ヘルスメーター」も和製語で、英語ではふつう bathroom scales という。

(182)ペンション

民宿風の小ホテルを指す「ペンション」はフランス語の pension(下宿屋)からきているが、英語としては通じない。英語の pension は「年金」の意味である。

日本でいう「ペンション」を表すには lodge(山小屋), resort inn(保養地の旅館), small hotel(小ホテル)などを用いる。

(183)ポイント

「ポイント」というカタカナ語は多用されるが、英語に訳す場合、常に point で置き換えることができるわけではないので注意が必要である。特に「…ポイント」の形の語に和製語が多い。例えば「チェックポイント」というが、英語の checkpoint は「検問所」である。また「重要な手がかり」の意味で「キーポイント」というが、英語では単に key という。「チャームポイント」も「魅力」の意味だから単に charm でよい。さらに「セールスポイント」も英語では selling point が正しい。

(184)ボーイフレンド

英語の boyfriend は「恋愛関係にある特定の男性, 恋人」の意。最近では英語でも, 日本語でいう「男友だち」の意味で boyfriend を用いることもあるが, 日常英語では friend (of mine) だけで十分。特に性別を示したいときは male friend とか, 年配者なら gentleman[man] friend とする。

(185)ホーム

「家庭」の意味の「ホーム」のついた語には和製語が多い。かかりつけの医者を目指す「ホームドクター」は英語では family doctor という。また「ホームドラマ」は family drama, 「ホームヘルパー」は home help である。野球用語の「ホームイン」「ホームスチール」も和製語。英語ではそれぞれ reach home, steal home のように動詞表現をとるのがふつう。

プラットホーム (platform) を略して「ホーム」というが, 英語では form とは略せない。また, platform は乗客の乗降のために軌道よりも高くした場所のことで, 軌道と同じ(くらいの)高さの場合には track と呼ぶ。

(186)ホステス

hostess は「(家庭でのパーティーで来客をもてなす)接待役の女性」が第一義で, host(接待役の男性)に対する語。「(社交クラブなどで客の踊りの相手をしたり, 話し相手になったりする)コンパニオン」の意もあるが, 日本の「バーのホステス」のイメージとはかなりずれる。「バーのホステス」は bar hostess とする。なお, barmaid は「女性のバーテン」の意。

(187)ポット

「コーヒーポット」「ティーポット」という場合の「ポット」は pot でよい。pot は「つぼ」「かめ」「深なべ」など丸くて深い容器を指すことば。日本語では魔法びんのことを「ポット」というが, これは日本だけの用法。英語では thermos (bottle) という。Thermos という商標名からきている。

(188)ホモ

日本語の「ホモ」は「同性愛者」の意で, 特に男性を指すが, 英語の homosexual および homo は男性どうしとは限らない。homo はやや軽べつ的。「ホモ」と同義の語に gay があるが, この語は同性愛者に好まれる。

(189)ボンネット

自動車の「ボンネット」はイギリス英語の bonnet からきていて、アメリカでは hood という。ただし、帽子の「ボンネット」は英米ともに bonnet である。

(190)マーク

「目印」とか「記号」の意味の「マーク」は mark でよいが、他の語を用いたほうがよい場合もある。例えばトイレや非常口などを示す「標識」の意味では sign を用いる。また、商品のマーク(商標)には trademark が、会社などの組織のマークには logo が相当する。

(191)マイナス

「マイナス」は数学の引き算の記号や負数を表すのに用いられるが、これらの場合は minus がそのまま使える。日本語では「欠点」とか「不利」の意味で「マイナス」というが、この用法は英語の minus にはない。また「赤字」の意味では、個人の場合は the red を、企業や国の場合は deficit を用いる。商売上の「マイナス」は loss がよい。

(192)マザコン

「マザコン」は「マザーコンプレックス」を略したものだが、mother complex という英語はない。心理学用語では Oedipus complex(エディプスコンプレックス)といている。なお、「マザコンの男の子」のことを口語で mama's boy とか mammy boy などのようにいう。

(193)マジック

「マジック」のつくことばには和製語が多いので注意が必要。マジック(インキ)日本での商標名で、英語では太いものは marker とか marking pen, 細めのは felt-tip (pen) という。アメリカの商標名の Magic Marker を用いることもある。マジックテープ 日本での商標名。英語ではやはり商標名の Velcro を普通名詞として用いる。マジックミラー 片面が鏡で、片面が素通しガラスの「マジックミラー」も和製語で、英語では one-way mirror という。

(194)マジックナンバー

プロ野球のシーズンの終わり近くに出る「マジック(ナンバー)」は、英語でも magic number でよい。

(195) マスコミ

「マスコミ」は「マスコミュニケーション」の省略。日本語では「マスコミの暴力」のような使い方をするが、この場合の「マスコミ」はラジオ、テレビ、新聞などの報道機関を指しているのので the (mass) media を用いるべきである。mass communication は「(大衆への)情報伝達」という概念を表すことば。

(196) マスター

「(バー・喫茶店などの)マスター」に相当するのは manager, owner, proprietor などであるが、後の2語が経営者自身を指すのに対して、manager は他人に雇われているマスターにも用いる。英語の master は「(動物、特に犬の)飼い主」「(奴隷の)主人」「修士」などの意。客が「マスター」と呼びかける場合は、Excuse me, sir[Mr. …]! のように言うか、親しい間がらであればファーストネームを用いる。「習得する」の意の「マスター」は英語でも master でよいが、この語は「完全に身につける、エキスパートになる」の意。熟達度の高さを強調するきたい語なので、日常的には learn を用いるほうがよい。

(197) マナー

行儀や作法をいう「マナー」は、英語では manners と常に複数形にする。「テーブルマナー」も table manners である。野球でいう「グランドマナー」やテニスなどの「コートマナー」はともに和製語で、manners は使わない。sense of fair play(フェアプレーの精神)を使ったり、show good sportsmanship(スポーツマンとしてりっぱな態度を示す)のようにマナーの良さを表現するしかない。

(198) マニア

英語の mania(発音は「メイニア」)が語源だが、これは病的な執着心を指す語で、日本語と異なり、人は指さない。人の場合は maniac といひ、a classic car maniac(クラシックカーマニア)、a fishing maniac(釣りマニア)などのように用いる。ただし、mania, maniac とともに「病的」のイメージが強い語で、他人に面と向かってこの語を用いるのは不適當。日常的には、「…狂」に相当する buff, bum, nut などを用いて a car buff(カーマニア)とか a railroad bum(鉄道マニア)などのように言ったり、よりにくいには

My uncle is an enthusiastic golfer. おじはゴルフマニアだのように言ったりする。

(199) マネージャー

英語の manager は「(店の)経営者、支配人」, 「(スポーツチームの)監督」などの意味で用い、学校の運動部などの「マネージャー」の意味では用いない。後者の場合は「世話役」ほどの意であるから caretaker が

よい。

(200) マフラー

「襟巻き」の意の「マフラー」は英語の muffler からきているが、最近ではこの英語は古風になっており、代わりに scarf が「マフラー」の意でも用いられるようになっている。「(自動車などの)消音器」の意では今でも muffler という。ただしイギリスでは silencer が一般的。

(201) ママ

mama, mamma は英語では古風な語で、日常語としては、今はアメリカでは mom, mommy が、イギリスでは mum, mummy が用いられる。mommy, mummy は小児語。日本語では飲み屋やスナックの女性経営者を「ママ」といい、mama-san, mamasan の形で英語に入っているが、英米にはこれに相当する人物はいないので、英語では female owner あるいは proprietress というほうがよい。「ママ」と同じような意味で「マダム」ということがあるが、英語の madam は売春宿の女主人を連想させることもあるので注意が必要。

(202) マラソン

英語の marathon は競技としての「マラソン」にしか使わない。健康法としてのマラソンは jogging である。公園などにある「マラソンコース」は jogging track という。また「マラソンシューズ」は running shoes(競走用), jogging shoes(ジョギング用)という。

(203) マンション

日本語の「マンション」は高層の集合住宅を指すが、英語の mansion は部屋数が何十もあるような豪壮な大邸宅を指す語で、全く意味が異なる。ただし、イギリスでは豪華マンションの名称として、例えば Diamond Mansions(ダイヤモンドマンション)のように複数形の mansions を用いることは多い。日本語の「マンション」は賃貸式のものには apartment house, イギリスでは block of flats, 分譲式のものには condominium という。「ワンルームマンション」はアメリカでは studio (apartment), イギリスでは bed-sitter という。

(204) マンネリ

「マンネリ」の語源は英語の mannerism だが、この語は芸術様式や言動の癖をいう語で、ふつうはあまり使われない。行動・考え方・生活などが「マンネリ化する」は get into a rut, 場所や活動が「マンネリでおもしろくなる」は become stale(新鮮さを失う)とか, become routine(やり方が固定的なものになる)のようにいう。

(205)マンモス

「巨大な」の意味で「マンモス…」というが、英語でも mammoth を形容詞として用いることができる。ただし、用法の違いはある。例えば「マンモスビル」は megastructure がふつうであるし、「マンモス都市」は megalopolis という。「マンモス企業」は mammoth enterprise といってもよいが、huge corporation のほうが英語としてはより自然である。

(206)ミキサー

日本では果物や野菜をくだいてジュースを作る機械を「ミキサー」と呼んでいるが、英語では blender, liquidizer という。英語の mixer は混合する機械や人を指す。food mixer や concrete mixer のほか、放送局などで音声や画面を調整する装置、およびその係の人も mixer である。

(207)ミス

「失敗」の意の「ミス」は miss よりも mistake や error が近い。miss は「(的などへの)当てそこない」の意味で用いることが多く、動詞の miss も「当てそこなう」、「捕まえそこなう」、「見逃す」などの意味。日本語の「ミスをする」に当たるのは make a mistake である。未婚の女性を指して「ミス」というが、この用法は英語にはない。unmarried woman とか single woman のようにいう。英語の Miss は未婚女性の姓または姓名の前につける敬称である。なお、未婚・既婚の別を明示したくない場合は Ms. を用いる。

(208)ミセス

「ミセス」は Mrs. (発音は「ミィシィーズ」) からきているが、Mrs. は既婚婦人の夫の姓(正式には姓名)の前につける敬称である。日本では結婚している女性を指して「ミセス」ということがあるが、これは日本的用法。英語では married woman という。

(209)ミックス

「ミックスする」という言い方のほか、「ミックス…」の形で日本語でよく使われるが、前者は mix A with B でよいが、後者は和製語の場合が多い。ミックスサンド は、ハム、卵などさまざまな種類のサンドイッチのとり合わせだが、これは日本独特のもの。あえて言えば club sandwich(3枚重ねのサンドイッチ) や submarine (sandwich) (大型ロールパンにいろいろはさんだもの) がやや近い。ミックスジュース mix juice でなく、mixed (fruit) juice のようにいう。

(210) ミッションスクール

英語の mission は「布教,伝道」の意で, mission school は本来「(宗教の)布教のための学校」を指す。したがってこれは「文化的に後進地域にある」というイメージを伴うことばでもある。日本語の「ミッションスクール」を説明するときは Christian school(キリスト教の学校)というほうが適切である。

(211) ミニカー

日本語では「小型自動車」「模型自動車」の両方の意味に使われるが, 英語の minicar はもっぱら前者を指す。またイギリスには客からの電話呼び出しにだけ応じるタクシーがあつて, それを minicar とか minicab と呼んでいる。「模型自動車」の意味の「ミニカー」は model car とか miniature of a car という。なお miniature car は「軽自動車」の意。

(212) ムード

英語の mood は「機嫌,気分」の意で, 楽しい気分のほか, 不快な気分も指す。これに対して日本語でいう「ムード」は「いい雰囲気」に近く atmosphere で表すほうが適切。ただし, 人についていう場合は air を用いる。「ムードがある」に moody を使うことはできない。moody は「気難しい」とか「不機嫌な」の意味である。したがって「ムードのある音楽」は romantic music, 「(バックグラウンドに流れる)ムード音楽」は background music のようにいう。ただし, 最近ではオーケストラによるポップスのやわらかな演奏のことを mood music ということもある。

(213) メーカー

「製造業者」の意味の「メーカー」は maker でもよいが, 英語では manufacturer を多く用いる。英語の maker は automaker, dressmaker, watchmaker のように複合語として使われることが多い。

(214) メス

外科医が手術のときに用いる「メス」はオランダ語の mes からきている。英語では scalpel または surgical knife という。比喩的に「(事件などに)メスを入れる」という場合, 英語ではこれらの語を使わず, 「探る」の意味ならば probe into を, 「根本的な処置をする」の意味ならば take drastic measures などを用いる。

(215) メモ

「メモ」は英語の memorandum(短縮形が memo)に由来するが、英語では主として「非公式の記録または連絡事項」「記憶するために書き記すもの、また注意すべきことを書いて他人に渡すもの」の意で用いる。

日本語でいう「メモ」は note に当たり、「メモをする」は
make[take] a note
という。

(216) メリット

英語の merit は「(称賛に値する)美点・長所」の意で、his merit(彼の美点)のように人についても用いられる。日本語では「メリット」は「有利な点、強み」の意味で用いられることが多いが、その場合は advantage のほうが近い例えば「英語ができるのは大きなメリットだ」は

Knowing English is a great advantage.
のようになる。反対の「デメリット」についても同様で、disadvantage のほうが日本語に近い。demerit はかたい語で、日常的にはあまり用いられない。

(217) メンバー

「出場選手の顔ぶれ」の意味では lineup を用いる。また「(チームなどの)メンバーだ」というとき member という語を使わなくても表現することができる。例えば「ぼくはそのチームのメンバーだ」は

I'm a member of the team.
ももよいが、
I'm on the team.
と言うほうが英語としては自然。

(218) モーション

野球では投手の投球動作全体を motion という。日本では「windup アップ」(ふりかぶる動作)のことを「モーション」ということが多いので、その場合は windup を用いる。「(女性に)モーションをかける」というが、これは和製用法。「言い寄る」の意味だから、

make a pass at A(人)
make advances to A(人)
などを用いる。

(219) モーニング

「モーニング」は英語の morning(朝、午前中)からきているが、注意すべきは日本の喫茶店などでいう「モーニングサービス」で、morning service とすると「朝の礼拝」の意味になる。したがって breakfast special (during service time) のように説明する必要がある。

電話で起こすことを「モーニングコール」というが、英語では wake-up call がふつう。礼服の「モーニング」は morning dress という。morning coat とすると上着だけしか指さないので注意。

(220) モニター

monitor から出た語だが、一般に用いられている「依頼されて放送・商品などの状態を調べて感想を述べる人」の意は英語の monitor にはない。この意味を英語で表すには test viewer(テレビの), test listener(ラジオの), test user, consumer (reception) tester(ともに商品の)などとする。

(221) モラル

日本語では「道徳」の意味で「モラル」というが、英語ではこの意味では morals と複数形にするか、morality という語を用いる。単数形の moral は「教訓」の意。似た語に morale があるが、これは「士気」の意で、発音は「a」にアクセントがある。

(222) モルモット

「モルモット」はオランダ語の marmotje が語源。英語にも marmot という語はあるが、これはアルプスやピレネーに生息するリスに似た動物のこと。実験などに使ういわゆる「モルモット」は guinea pig または cavy といい、和名テンジクネズミである。比喩的な意味で「モルモット」ということがあるが、この場合も guinea pig を使う。

(223) ヤング

若者一人一人は young man[woman], young person, youngster というが、「若者たち」という意味の「ヤング」は総称であるから the young, youth, young people を用いる。「若い世代」の意味では young generation で、「ヤング向けの雑誌」は magazine for the young generation である。

(224) ユーモア

英語の humor からきているが、この語は人間的で温かいおかしみを指す語。冗談やしゃれのたぐいには humor よりも joke が相当する。「ユーモラス」も humorous からきているが、funny や amusing を使ったほうが多い場合も多い。

(225) ユニーク

日本語の「ユニーク」は「珍しい」とか「変わった」の意味で用いられるが、英語の unique は「唯一の」「無類の」が第一義。ただし、形式ばらない

口語英語では「変わった」の意味で用いられることも多い。

(226) ヨット

日本語で「ヨット」というと、ふつうレースやスポーツで用いる小型の帆船を連想するが、英語の yacht は船室のある遊覧用の豪華船(帆はない)をも指す。したがって小型の帆船であることをはっきりさせるためには sailboat, sailing boat という必要がある。

(227) ライバル

日本語では競争相手を指して「良きライバル」などというが、英語の rival にはこのような「友人」のニュアンスはなく、敵意や対抗意識を抱いている競争相手の意である。「ライバル」の意は同意語の competitor でも表せるが、この語は中立的で、敵意は含まない。

(228) ライブ

「生きている」の意味の形容詞 live(発音は[ライヴ])からで、放送や番組などについて「生の、実況の」の意味で用いられる。生演奏を聞かせる店のことを「ライブハウス」というが、これは和製語。英語では生演奏の有無に関係なく、単に club とか bar というだけである。特に生演奏があることを説明しなければならないのなら

a place with live music
などとする。

(229) ラッキー

「ラッキー」は lucky でよいが、「運がいい」の意味だから fortunate を使うこともできる。野球の「ラッキーセブン」は英語では the lucky seventh といい、通例7回の裏のホームチームの攻撃を指す。アメリカには seventh-inning stretch(7回の背伸び)という習慣があり7回に味方の攻撃に入る前、観客が立ち上がったり、体を動かしたりする。「ラッキーゾーン」は日本の球場特有のもので、アメリカにはない。しかし、"lucky zone" として、説明的に使うことはできる。

(230) ランドセル

「ランドセル」はオランダ語の ransel から日本語に入ったことば。

英米の子どもたちは

satchel(肩掛け, または手さげのかばん)

knapsack(ナップサック)

shoulder bag(ショルダーバッグ)

など好みのものを持って行く。日本の小学生などが用いる「ランドセル」は school rucksack と表現するのが適当である。rucksack はひもで背負うナップサックの一種。schoolbag は以上を含めた「通学かばん」

に当たる一般的な語。

(231)ランニング

日本語の「ランニングシャツ」は男性の下着を指すことが多いが、これは英語では sleeveless undershirt という。運動選手などが着るランニングシャツは athlete shirt, (athletic) jersey, tank top などという。いずれにしても running shirt は不可。「ランニングホームー」は和製語で、英語では inside-the-park home run [homer] (球場内ホームラン) という。

(232)リサイクル

廃物や古物の再利用のことを「リサイクル」というが、英語の recycle は「再利用する」という意味の動詞である。名詞としては recycling としなければならない。「リサイクルショップ」は和製語で、英語では recycled-goods shop という。

(233)リストアップ

必要な品物などを選び出して一覧表を作ることを「リストアップする」というが、list up という英語はない。list を動詞として使うか、make a list of とする。

List all the jobs you have held.

今までの職業をリストアップしなさい

(234)リハビリ

障害者や病人を社会復帰させるための訓練を「リハビリ」といっているが、これは「リハビリテーション」の日本式省略。英語の rehabilitation からきているが、この語は日本語の「リハビリテーション」よりもっと意味が広く、犯罪者や麻薬中毒患者の社会復帰訓練の意味で用いることが多い。口語では rehab という。日本でいう「リハビリ」の中心は運動・マッサージなどの物理的手段による機能回復訓練であるから、physical therapy (物理療法) という語を使って表すこともできる。

(235)リベート

英語の rebate からきていて、発音は「e」にアクセントがある。また、日本語の「リベート」は「(ひそかにもらう)世話料,手数料」という悪い意味で用いることが多いが、rebate の本来の意味は「(支払い金の一部の)払い戻し」である。悪い意味の「リベート」に当たるのは kickback や rake-off。

(236)リュックサック

「リュックサック」はドイツ語の Rucksack から日本語になったことばだが、英語でも rucksack(発音は[ラックサック])という。また backpack ともいい、アメリカでは knapsack もよく使う。

(237)リンチ

「リンチ」は英語の lynch からきているが、この語は法的手続きによらずに集団で裁いて絞首刑などにして殺すことを意味する。日本語でいう「リンチ」は単に暴力的制裁を加えることなので、lynch でなく beat up などの語を用いて表すのがよい。

(238)ルーズ

「ルーズ」は英語の loose からきているが、英語の発音は[ルース]で語尾が濁らないことに注意。loose は「ゆるい、たるんだ」という意味だが、主に衣類などに関していう。道徳的に「だらしない」という意味もあるが、今では古めかしい用法。「きちょうめんでない」の意味の「ルーズ」には shoddy,「怠慢な」という意味なら negligent,「不注意な」なら careless,「散らかしっ放しの」なら untidy を用いる。また「時間にルーズな」は unpunctual,「男女関係がルーズな」は promiscuous などという。

(239)レジ

「レジ」は英語の register からきているが、金銭登録器そのものは cash register という。それを扱う係の人は cashier または checker で、「レジ」の場所は check-out counter という。

(240)レジャー

英語の leisure は「(仕事を離れた)自由時間,余暇」の意。日本語では余暇を利用しての遊びや楽しみのこと「レジャー」といっているが、英語の leisure にはこの意味はない。「遊び」の意味ならば recreation や amusement を使う必要がある。

(241)レベルアップ

level up という表現はあるが、これは「低い所を埋めて平らにする」の意。日本語の「レベルアップ」は単に「高める」の意で用いられることが多いので、「improve:向上する」が相当する。

My English ability has been improved.

英語力がレベルアップした

同様に level down は「高い所を低くすることで平らにする」の意で用いられることが多い。日本語の「レベルダウン」には「deteriorate:悪化・低下」が相当する。

There has been a deterioration[a decline] in college students' Japanese ability.

大学生の国語力はレベルダウン(=低下)した

(242) レンジ

台所の「レンジ」は、アメリカでは range というが、stove のほうがよりふつう。イギリスでは range は古めかしい言い方で、ふつうは cooker とか hob という。「電子レンジ」は microwave oven または単に microwave という。

(243) ローカル

英語の local は「ある特定の土地の、地元の、現地の」の意。国全体から見て「地方の」の意味ではあるが、都会に対して「いなかの」の意味ではない(この意味は英語では regional という)。local news は「その土地の[地元の]ニュース」の意味である。

(244) ロープウェー

英語の ropeway には、観光地などの「ロープウェー」の意味のほかに、工場や鉱山の「貨物空中輸送装置」の意味がある。前者は英語では cable car とか, gondola lift, tram lift などとも呼ばれる。したがって観光客を運ぶ「ロープウェー」は ropeway でも cable car でもどちらでもよい。つまり cable car は「ロープウェー」を含む。

(245) ロマンチスト

「ロマンチスト」は英語では romanticist というが、この語は「ロマン派の芸術家」の意味で使われることが多い。日本語の「ロマンチスト」は「夢想家」の意味であるから, romantic や dreamy person を用いる。

(246) ワイシャツ

「ワイシャツ」は white shirt がなまったものだが、英語では単に shirt という。white shirt は「白いワイシャツ」であることを明確にするときに用いる。dress shirt ということもあるが、これは半そでシャツ(short-sleeved shirt)やスポーツシャツ(sport shirt)などと区別したり礼装用のシャツを指すときにいう。

(247) ワゴン

英語の wagon からきた語で、wagon と同様いろいろな意味があるが、「手押し車」の意味と「ワゴン車」の意味が最もふつう。「手押し車」には料理や飲み物を載せて移動する(tea) wagon と、スーパーマーケットなどで使う買い物用の shopping cart がある。「ワゴン車」の意味で

はstation wagon(米), estate car(英) がふつう。

(248) ワッペン

「ワッペン」はドイツ語の Wappen(紋章)から。英語では emblem が相当する。はり付けるタイプのものは sticker という。

(249) ワンパターン

one pattern では「一つの型」の意味にしかない。日本語は「いつも同じやり方」の意味だから、「ワンパターンだ」は

follow the same (old) pattern

とするか

stereotyped(型にはまった)

などの語を使って表す。

(250) ワンマン

英語にも one-man という形容詞はあるが、これは「ひとりで行う」という意味であって、日本語のような「独裁的な」の意味はない。したがって「ワンマン社長」は autocratic(独裁的な)などを使って表す必要がある。「ワンマンショー」は one-man show でよいが、最近では性区別のない solo show という言い方もされる。「ワンマンバス」は、イギリスでは車掌のいるバスと区別して one-man bus というが、アメリカでは運転手だけのバスがふつうなので、特にワンマンであることをいいたいときは one-man operated bus と説明する必要がある。